



2023年01月 第21巻 第1号

## かく語りき—聖人の言葉

我が子、よ、大事なことを言います。  
もしあなたが平安を望むなら、他者の過ちを見ないでください。それよりあなた自身の欠点を見いだしなさい。世界をあなた自身とすることを学びなさい。我が子よ、他者などいません。全世界があなた自身なのですから。  
…ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー

心は提案を受け入れやすい。心はあなたが教えるものなら何でも習得する。富者と貧者の唯一の違いは、貧者は貧に苦しみ、富者は富に苦しむということだ。瞑想、瞑想、瞑想せよ。  
…スワミー・ブラフマーナンダ

シュリー・ラーマクリシュナは私たちが偉大にしたのではなく、私たちが「何者でもないもの」とした。君たちも「何者でもないもの」になりたまえ。あらゆる虚栄心とエゴの感覚を拭い去りなさい。私ではない、私ではない、あな

たです。おお主よ。

…スワミー・プレーマーナンダ

## 今月の目次

- ・かく語りき—聖人の言葉
- ・お知らせ
- ・2023年2,3月の生誕日
- ・『日本のために何かをしたい』というスワミー・ヴィヴェーカーナンダの願いを叶える」 パート3  
『アンジャリ』誌に掲載されたスワミー・メーダサーナンダへのインタビューの抜粋。
- ・2022年12月18日 シュリー・サーラダー・デーヴィー 生誕祝賀会  
「ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー 私たちの永遠の避難所」  
スワミー・メーダサーナンダ
- ・2022年12月24日クリスマス礼拝  
「クリスマス・イブ講話」  
スワミー・メーダサーナンダ
- ・2022年12月24日クリスマス・イブ礼拝  
「クリスマス・イブのお話」  
ステイーヴン・モーガン

- ・忘れられない物語
- ・今月の思想

## これからの予定

### お知らせ

プログラム参加を希望される方はご連絡ください。マスク着用、ソーシャルディスタンス等ご協力をお願いいたします。

### 2023年1,2月の生誕日

### 2023年2,3月の生誕日

#### 2023年2月

スワームー・アドブターナンダ  
2月5日(日)

シュリー・ラーマクリシュナ  
2月21日(火)

#### 2023年3月

シュリー・ガウランガ  
3月7日(火)

スワームー・ヨーガナンダ  
3月11日(土)

シュリー・ラーマ ナヴァミ  
3月30日(木)

・日本ヴェーダーンタ協会の行事予定はホームページをご確認ください。

<https://www.vedantajp.com/>

※以下、内容に少し変更がありました。

『**日本のために何かをしたい**』という  
**スワームー・ヴィヴェーカーナンダの**

## 願いを叶える」 パート3

The Bengali Association of Tokyo in Japan(ベンガル人協会)出版の『アンジャリ』誌に掲載されたスワームー・メーダサーナンダへのインタビューの抜粋。

インタビュアー：ランジャン・グプタ氏、サンジブ・チャンダ氏

### ランジャン

マハーラージ、ありがとうございます。

さて、この国での活動で直面した課題について説明していただけますか？そして、どのようにして日本人とインド人をヴェーダーンタ協会にうまく一つにまとめているのでしょうか？

ヴェーダーンタ協会にやってくる日本人が、ヴェーダーンタ哲学の難しい概念を理解するのに必要な霊的基盤を育んでいることは、おどろきです。どのようにヴェーダーンタ哲学を日本語で理解させ、彼らを組織本体に組み入れたのですか？ 私は、素晴らしいチャレンジだと思います。日本でこれほどの成功を収めたインド人の団体は多くありません。あなたが直面した課題は何ですか？そしてそれらをどのように克服したのでしょうか？ 私たちの読者はこのことを非常に知りたいと思います。

## マハーラージ

私が日本に来た 1993 年以來、私が学びを通して観察し、認識した事実は、かつては仏教のおかげで日本人のインドに対するイメージは非常に高かったということです。明治維新で近代化を進めたとき、日本は欧米をモデルとしましたが、その時に態度が変化したのです。お釈迦様の国としてのインドの高いイメージは下落し始めました。というのは、インドがイギリスに征服され、そのうえ貧しい国だったからです。

日本人にとって、偉大な国とは経済的にも軍事的にも強力な国のことです。

平均的な日本人にとって、そのことが国の偉大さの基準でした。独立後何年もの間、インドは経済的にも軍事的にも強くなかったので、平均的な日本人にとってインドの地位はかなり低いものでした。しかし、前世紀末からインドが発展し、経済力と軍事力が大幅に増大し、主に情報技術が開花したことで、インドのイメージは改善され始めました。

インド人として私が注目してほしいもう一つのポイントは、インドと日本人と人とのつながりの確立が、基本的に欠けている、ということです。日本の学校で生徒たちは、世界の宗教を含む異文化文明を知ります。しかし非常に残念なのは、教科書にはキリスト教、イスラム教、仏教、さらにはユダヤ教の詳細な記述が載っているのに対し、ヒンドゥ教とインドについての記述は

ほんの少しの些細なものしか載っていないことです。したがって平均的な日本人はインドとヒンドゥ教について正しい考えを得る機会がほとんどない、それが最も残念なことなのです。ですので、私たちが、インドやインド文化に関心を持つ日本の大学生のために、インドやインド文化についての講演を随時開催していることは、大事なことです。今は、教授と共に学生が協会にやってきました、学生向けのインドに関する講義をインターネットを使って行っています。

先ほど、この協会を運営する上での私たちが直面する課題について質問を受けました。その回答として、私たちは時折いくらかの財政問題に直面していることを告白しなければなりません。多くの仏教団体とは異なり、私たちのあらゆるプログラムは無料です。それには、食事の提供も含まれています。また、私たちの機関の運営は、主に寄付に頼らざるを得ないのですが、寄付は収入源としては変化が多いです。私たちは、本を含む宗教品の販売が収入源となっていますが、私たちの収入は減少しています。幸いなことに、コロナのパンデミックのことを考えて、心の大きな個人が私たちに寄付を送ってくれるので、私たちは非常に感謝しています。

もう一つ考えなければならない事実は、

ほとんどの日本人が仏教徒であるにもかかわらず、彼らはほとんど信仰を実践していない、ということです。いくつかの理由で、宗教は今や平均的な日本人にとって、余分なこととは言わないまでも、単なる伝統行事になっています。例えば、1月1日に神社に参拝することは、その神社の神々に対する真の信仰と尊敬からではなく、単に伝統に従うために行きます。霊性への真の関心は日々低下しています。日本人は素晴らしい性格的特性を持っているのに、ますます唯物論的で無神論的になっていることは大変憂慮すべきことです。彼らは次第に世俗的な喜びが好きになっています。ちなみに、アメリカ人も世俗的哲学主義を追い求めています。その中には何百万人も宗教志向の人々もいるのです。けれども、平均的な日本人は今や霊性や宗教にあまり関心がありません。彼らは誰かが宗教や霊性に興味を示せば、その人は頭がおかしい、と思うのですよ。

そこに私たちは手を貸します。世俗的な生活を送れば送るほど、その人は緊張し、ストレスを感じることは確かです。日本人は確かに平安と高潔さを望んでいますが、それらを得る手段に気づいていません。したがって、彼らはさまざまな場所を探しますが、最終的には失敗します。彼らは宗教団体からあまり助けられていないし、な教育も受けていません。家族は子供に行儀作

法は伝えても、平安と幸福を得るために最も重要な霊的な価値観は伝えないのです。

一方、ほとんどのインド人は霊性と宗教に深く根ざしています。霊的インドのビジネスマンや訪問者が日本に来て現地の人々と会うとき、会話の中で宗教や霊性に関することが出ても、日本側の人間は全く関心を示しません。

現在の状況の中で幸福と精神的平安を得るためには、物質的なものも霊性も必要です。この場合の霊性は因習的なものであってはなりません。それは普遍的で、調和的で、合理的で、オープンであるべきで、それこそがヴェーダーンタ哲学の特徴なのです。ヴェーダーンタは、非常に古く、霊的で、哲学的な伝統ですが、現代的、合理的、普遍的、調和的でもあります。これこそが日本に必要な宗教で、私たちがこの国に広めようとしていることです。

オープンで合理的な宗教を求める日本人のみなさんは、私たちのアシュラムを訪れ、私たちのプログラムに参加します。彼らはヒンドゥ教の寺院でクリスマスとお釈迦様の祝祭日を祝うのを見て、心躍らせます。毎週日曜日の朝、私たちはヴェーダのマントラとバガヴァット・ギーターを唱え、キリスト教の聖書と仏陀の教えと預言者ムハンマドの教えを読む特別な礼拝を行います。つまり、私たちは宗教の調和について

単に話すだけではなく、それを謙虚に実践しようとしているのです。そしてそのことは私たちの日本の信者と訪問者に感銘を与えます。そのようにして、彼らはシュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダ、そして私たちの組織に共感するのです。例えばヴィヴェーカーナンダの祝賀会のようなプログラムがあるときはいつでも、シュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダ、そしてヴェーダーンタとラーマクリシュナ僧院をよく知り愛する日本人とインド人の両方が出席します。さらに、彼らは自発的に互いに調和して、一緒になってそのようなプログラムをうまくまとめるように働きます。

私たちのヴィヴェーカーナンダ祝賀委員会は、インド人、日本人、知識人、主婦、ヨーガの先生、キリスト教の司祭などで構成されていることにお気づきだと思います。彼らは本当にさまざまな人びとで社会の代表例です。委員会自体が、私たちがいかに調和的であるかという事実を明らかにしています。日本人もインド人もそのことに感動し、私たちの活動に参加するモチベーションにもなります。また、これらはすべて自然な方法で起こるのです。

### ランジャン

マハーラージ、ありがとうございます。長年にわたり継続的に開催なさっ

ている東京でのヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会について、もう少し詳しく教えていただけますか？

### マハーラージ

すべてがどのように始まったかをお話ししましょう。以前は協会が主催するそのような社会一般に向けた祝賀会はありませんでした。興味深いことに、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが初めて日本の地を踏んだのは1893年で、私は彼の訪問から1世紀後の1993年に日本の地を踏みました。1993-94年はスワミーの来日100周年であり、それはこの国のスワミーの信者や崇拝者にとって非常に重要な出来事でした。スワミーの来日100周年を毎年祝うことはできないので、私はこの特別な状況を利用することを考えました。私は1993年11月に来日しました。その年、シカゴの宗教会議におけるスワミーの演説100周年祭がコルカタのネタージ・インドア・スタジアムにて7日間連続で盛大に祝われました。世界中の国々から多くの信者や学者が出席し、私はその壮大なイベントの儀式的司会を務めるという機会に恵まれました。その経験が鮮やかに心に残っていたので、私はスワミーの来日100周年を祝うことにしたのです。私はこの組織を手伝ってくれる日本人もインド人も知りませんでした。また、当時私は日本人の信者のことをほとんど知らなかったので、

ほんの数名の日本人信者の助けだけで、祝賀会をすることは不可能でした。年配の経営者でラーマクリシュナ・ミッションの元学生だった故ジョーティルモイ・レイ氏が、1994年のサラスヴァティ・プージャの際に、私をBATJ（東京ベンガル人協会）に紹介してくれました。私はこれを、祝賀会を組織する絶好の機会だと思いました。なぜなら、インド人はすでにスワームージーのことをよく知っており、彼に敬虔な愛情を持っていたことと、インド人の支援がなければ祝賀会を組織することは難しかったので、このイベントを成功させるために私たちを助けてもらいたかったからです。そこで、私はシャマル・カル氏、ランジャン・グプタ氏、パルト・ゴージュ氏、その他数名に祝賀会のアイデアを紹介しました。すると全員が祝賀会をサポートし、そのために働く、と申し出てくれました。最大の制約は、イベントの資金調達でした。ホールの予約、飾りつけ、イベントの宣伝、ふさわしい講演者、軽食、などを手配しなければならないし、他にも大小さまざまなことをしなければならず、そのためにお金が必要でした。幸いなことに、マハラジャ・レストラン・チェーンのオーナーであった故シブジ・コタリ氏が、このイベントのために100万円を寄付してくれました。このことから私は、神様の仕事を行うことになる、と、お金が問題になることは決してない、と気づくことができたの

です。このことは私の経験ですが、無報酬の仕事に従事している他の僧侶の経験でもあります。私たちは目黒にある公民館を祝賀会のために押さえました。インド大使閣下をはじめ多くの要人が講演し、多くの信者や崇拜者がプログラムに参加したので、イベント全体が大成功でした。

これにより、私たちは毎年スワームージーの生誕日を祝うようになりました。またこのイベントは、日本の学者や宗教の指導者やその他の日本の著名人を招いて考えを分かち合う場となり、さまざまな文化プログラムを開催する場にもなりました。さらにこのイベントは、日本人、インド人、その他の外国人も参加するので、スワームージーのメッセージを広めるのに役立ちます。協会の出版物の展示・販売をしたり、日印関係に関する展示をすることもあります。このことは多くの来場者に感銘を与えています。

## ランジャン

スワームージーに感謝します。あと5分あるので、新しい質問をするのではなく、私自身の意見をシェアさせてください。マハーラージがおっしゃった祝賀会では、インド人と日本人の両方が垣根なく協力しています。その秘密を教えてくださいませんか？ それを達成できる組織は多くありません。

## マハーラージ

オーケー。2点あります。まず第一に、シュリー・ラーマクリシュナは「ジュガボタル」つまりこの時代の預言者とみなされていることです。この時代の預言者は調和の預言者であり、世界をそのあらゆる相違と調和させることができる人でなければなりません。それと同時に、この物質的なシナリオの中で平安と充実感を体験するために、世界は霊的価値も必要としています。そして私たちは、シュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダの中に「調和と充実した人生」というメッセージを見いだします。

二つ目は組織です。僧侶が運営するヴェーダーンタ協会という組織の存在の動機は、ただ一つです。その動機とは、シュリー・ラーマクリシュナとスワミー・ヴィヴェーカーナンダのメッセージを広め、日常生活の中で同じことを実践することです。

最後に言いたいことは、シュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワミージーがこの協会を祝福してくださっているということと、協会の円滑な運営と成長に向けてさまざまな形で貢献し、現在も貢献している多くの信者や信者以外の個人、組織、施設が存在している、ということです。現在の広がりを見ると、彼らとそれらすべてに対して感謝

に堪えません。ここに、インド大使館、BATJ、日印協会、インド経済界、日本ヨーガ療法学会、故チェララム氏、ガジュリア氏、シブジ・コタリ夫妻、スミトラ・ラオ氏、中井はる氏、奈良毅教授、シ rilル・ヴェリアト教授、佐藤洋子氏、ヴィヴェーカーナンダ祝賀委員会のメンバーなどの名前をあげたいと思います。

## ランジャン

マハーラージ、ありがとうございます。今日は日本ヴェーダーンタ協会の役割、たとえば、インド人と日本人をより親しい間柄にすること、インドの文化と霊性を一般に広めること、そして特にラーマクリシュナ-ヴィヴェーカーナンダの魂をゆすぶられるようなメッセージと日本におけるヴェーダーンタについて、非常に有益で興味深いお話を聞くことができました。

終わり

**2022年12月18日 シュリー・サーラダー・デーヴィー 生誕祝賀会**

**「ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー 私たちの永遠の避難所」**

**スワミー・メーダサーナンダ**

今日はホーリー・マザーの生誕をお祝いしています。ここにいるほとんどの皆さんは、ホーリー・マザーの生涯に

ついて知っていますが、中には知らない人もいますので簡単に説明します。ホーリー・マザーは1853年12月にベンガルのある村で生誕なさいました。少女時代にシュリー・ラーマクリシュナと結婚しました。当時、インドでは幼児婚は一般的だったからです。当時の習慣に基づき、彼女は結婚後も両親とともにジャイランバティに住み続けました。そして大きくなってからシュリー・ラーマクリシュナと暮らし始めました。



つまり、お二人の結婚生活はかなり後になってから始まったのです。しかし、覚えておかなければならないのは、お二人の結婚は名ばかりのものだったということです。その関係性はピュアなもので、夫と妻の肉体的な関係はありませんでした。ある時、ホーリー・マザーは、シュリー・ラーマクリシュナをどのように見ておられますか、という質問を受けました。その時ホーリー・マザーは「夫、息子、そしてマザー・カーリーとして見ています」と答えました。ですので、シュリー・ラーマクリシュナが亡くなった時、ホーリー・マザーは泣き叫んで言いました。

「おお、マザー・カーリー、どうして私から離れておしまいになるのですか？」

ホーリー・マザーがシュリー・ラーマクリシュナと一緒に住むようになってから、シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーに霊的生活についても主婦としての生活についても詳しく教えました。ホーリー・マザーは霊的修行をたくさんなさいました、そして聖者になったのです。ホーリー・マザーはシュリー・ラーマクリシュナの妻だから聖者である、などと考えるべきではありません。彼女のご自身の権利で聖者となりました。ホーリー・マザーを言いあらわすのに、聖者という言葉だけでは不十分です。彼女はそれ以上の存在でした。彼女は聖なる母の化身だったのですから。

ある時、一人の信者がシュリー・ラーマクリシュナの直弟子スワミー・サーラダーナンダに、「私はサーラダー・デーヴィーが聖なる母の化身だなんてまったく信じられません」と言いました。サーラダーナンタジーは、「もしあなたが、シュリー・ラーマクリシュナが神の化身である、ということを実に信じているのなら、彼がその資質を持たない女性と結婚したと思いますか？ ラーマとシーターやクリシュナとラーダーのことを考えてごらんください。シーターもラーダーも一般的な女



性ではありませんでした。同じことがサーラダー・デーヴィーにも当てはまります」。

シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーのことを「彼女は私のシャクティだ。火を、燃える力と光を与える力に分けることなどできるかい？ 火を思う時、その燃える力も光を与える力も心に浮かぶだろう」と言いました。シュリー・ラーマクリシュナの生涯が終焉を迎えようとしていたある日、サーラダー・デーヴィーが彼のもとに行くと、シュリー・ラーマクリシュナはホーリー・マザーのことをただじっと見つめました。ホーリー・マザーは「どうしてそのようにただじっと私を見ておられるのですか？ 何かおっしゃりたいのではありませんか？」と尋ねると、シュリー・ラーマクリシュナは「私は全てのことを一人でやらなければならないのかい？ お前は何かもしないつもりかね？」と言いました。サーラダー・デーヴィーは「私は一人の女性に過ぎません。いったい何ができるというのでしょうか？」と答えました。するとシュリー・ラーマクリシュナは「いやいや、お前はもっとしなくちゃいけないよ」と言いました。するとホーリー・マザーは「時がくれば、考えてみます」と言いました。

シュリー・ラーマクリシュナが亡くなったあと、ホーリー・マザーは四つの

大きな役割を果たしました。

1. ラーマクリシュナ僧団の守護神
2. 信者たちの霊的な導き者
3. 解脱を与える者
4. 普遍的な母という役割

これらの中で、普遍的な母性としての役割が一番際立っていました。

では、普遍的な母ホーリー・マザーと、一般的な母親とは何が違いますか？ 一般的な母親がえこひいきをするのはよくあることです。他の子供より多くのお金を稼ぐ子供、より賢い子供、より従順な子供、または母親の世話をする子供を愛する、ということはよくあることではないですか？ しかし、ホーリー・マザーはそうではありませんでした。なぜなら彼女は子供らにいかなる見返りも期待しなかったからです。彼女は、善い人も悪い人も、従順な人もそうでない人も、彼女を手助けする人も助けない人も、差別しませんでした。彼女は期待をしなかったので、彼女の愛は平等でした。

もう一つのポイントは、息子が困っているとき、母親は絶対に助けようとします。しかし、息子を助ける母親の力には限界がありますね。しかし、聖母には無限の力があります。さらに、一般的な母親は我が子のこの世での幸せを考えますが、あの世のことについては考えません。私たちヒンドゥ教徒

と仏教徒は生と死の輪廻転生を信じています。一般的な母親は我が子が解脱するか否か、天国に行くか地獄に行くか、などについては全く悩みません。彼女の全愛情は今生のみの子供の幸せにとどまっているからです。しかし、聖母は我が子の今生での幸せの面倒をみるだけでなく、この世の後の別の世界の面倒もみます。これは大きな違いではありませんか？ このような一般的な母親とホーリー・マザーの違いは、彼女自身の言動によって明らかです。そしてそれは彼女が聖母である証です。

もう一つの違いは、人間の母親は今生だけの母親ですが、ホーリー・マザーは永遠の母である、ということです。人間の母親もまた聖母の化身です。つまり、ホーリー・マザーは実際の母でもあるのです。彼女はさまざまな母親の中にあらわれています。彼女自身、発言を通してこの点を何度も強調してきました。誰かが彼女に「あなたはどうなお母さんですか？」と尋ねました。というのはインドでは年配の女性は尊敬をもって「お母さん」と呼ぶからです。それは習慣です。ですので、質問をした人はそのことを確認したかったのです。ホーリー・マザーは、慣習的な敬意からお母さんと呼ばれていたのでしょうか？ それとも、シュリー・ラーマクリシュナの妻だからでしょうか？ ホーリー・マザーは「いいえ、私はあなたの本当のお母さんです。あ

なたの人間のお母さんは実は私の化身なのですよ。私はあなたの人間のお母さんとして生まれてきました。だから本当のお母さんは私だけなのです」と言いました。

彼女が述べたことをいくつか言います。

- ・ 「私は良い子のお母さんであり、悪い子のお母さんです」
- ・ 「誰もが良い子の母親になりたいがります。悪い子の母親になりたい人がいるでしょうか？ 私はそんな差別はしません」
- ・ 「もしわが子が汚れていれば、その子をきれいにして、ひざの上に載せてあげます。私は子どもを拒絶しません。普遍的な母として私はその子を受け入れます」
- ・ 「わが子よ、いつも覚えておきなさい。誰もいなくても私があなたと共にいます。私はいつもあなたと一緒にです。決して怖がらず、落胆しないでください。私はあなたのお母さんですよ、それなのに何を恐れているの？ 私はあなたの本当のお母さんです。私がそこにいる限り、恐れることはありません」

何という請け合いの言葉でしょう。私たちは時として、非常に弱くなったり、無力だったりします。ホーリー・マザーのこれらの言葉は私たちが憂鬱な時

に、すごく力づけてくれます。これらはうわべだけの言葉ではありません。彼女の人生の多くの出来事が、この思いやりを証明しています。人は絶望したり、欲求不満であったり、苦しんでいるときに、深い信仰と平安を得ます。そのような出来事の一例を言います。

貴族のある女性が非常に不道德な生活を送っていました。後に、彼女はそのことについて後悔しました。当然のことながら、彼女は非常に落ち込みました。そんな時、彼女はラーマクリシュナ教団の僧侶に会いました。僧侶は彼女にホーリー・マザーに会うように言いました。そこで彼女はホーリー・マザーが住んでいたバグバザールに行きました、彼女はホーリー・マザーを見るとすぐにひどく泣き始めました。しばらくして、彼女は「ああ、お母さん、私は人生で非常に多くの過ちを犯してきたので、あなたに近づくことさえできません」と言いました。マザーは言いました「そうね、我が娘よ、あなたは間違ったことをしてきましたね。でも今は後悔しているじゃありませんか。それで十分よ。私のところにいらっしやい。あなたをイニシエートしてあげましょう」。そしてホーリー・マザーは彼女を我が子として受け入れました。

さて、ある人が他の人の罪を負うことは可能でしょうか？ 絶対にできます。このことは、主イエス、シュリー・ラ

ーマクリシュナ、ホーリー・マザーの生涯の中で示されています。体が純粹になれば、体のあらゆるシステムが非常に精妙になります。

さまざまな種類の人があります。一つ目の種類の人々は多くの罪を犯しても後に悔い改め、もう二度とそのような罪を犯したくありません。二つ目の種類の人々は罪を犯し続けます。そして三つ目の種類の人々は、常に非常に純粹です。

ホーリー・マザーの体は非常に純粹で精妙になっていたのも、誰が彼女の御足に触れたかによって、異なった反応が起こりました。一つ目の種類の人々がホーリー・マザーの御足に触れてもホーリー・マザーは全然大丈夫でした。しかし、まだ不道德な生活を送っている人が彼女の御足に触れると、その反応は恐ろしいものでした。ホーリー・マザーは非常に苦痛を感じました。なぜなら彼女の体はとても純粹だったので、不純なタッチはホーリー・マザーに大きな影響を与えたのです。

多くの信者がホーリー・マザーのもとにやってきて、プラナム（御足にひれ伏す）をするとき、ホーリー・マザーは何度もガンジス川の水でご自身の御足を洗うことがたびたび目撃されました。信者の中には「お母さん、どうして水で足を洗うのですか？ 風邪を

引きますよ」と言う人もいました。そんな時、ホーリー・マザーは、「我が子よ、ある人たちが私の足に触れると非常に落ち着くのですが、別の誰かが私の足に触れたとき、燃えている炭が私の体に投げ入れられたように感じることもあるのです」と言いました。

しかし、不純な人がホーリー・マザーの御足に触れているときでも、直ちに反応することはありませんでした。ホーリー・マザーは途方もない痛みに黙って耐えたのです。その後で、痛みを和らげるために、御足を水で洗いました。これは単なる神話や作り話や想像ではありません。

これが原因でホーリー・マザーは慢性疾患に苦しんでいました。ホーリー・マザーの付き人である僧侶は言いました「これからは誰ひとりあなたの御足に触れることを許さないでおきましょう。信者があなたの御足に触れることをお許しになるから、彼らの罪を受け入れて苦しんでおられるではないですか。あなたの病気が治らないのは当然です」。ホーリー・マザーは、「息子よ、シュリー・ラーマクリシュナ（と私）はラサゴラを食べるためだけにこの世に生まれてきたのでしょうか？ 私たちは毒も飲むのです」

つまり、彼らは人類を救うという使命のためだけに転生しました。彼らには

力がありましたが、静かに苦しみ、信者に慰めを与え続けました。ホーリー・マザーの慈悲を見てください。「私たちは、ただ美味しいものを供えられ、きちんと仕えられ、崇拜されるために人間として転生したのでしょうか？ いいえ。私たちはいつでも他者の苦しみを取り除く心づもりがありますし、そのために自分が苦しむことなどなんでもありません。私たちは何度も何度も転生したいのです」。この発言は、ホーリー・マザーの普遍的な母性を示しています。

私の理解するところでは、シュリー・ラーマクリシュナの生涯と教えはバクティ・ヨーガの実演、スワームージーの生涯はギャーナ・ヨーガを示し、ホーリー・マザーの生涯はカルマ・ヨーガの実演です。彼女はまさに主婦としての生涯を送りましたが、数名の親戚とともに暮らしていましたが、その親戚たちは聖人とはかけ離れていました。彼らの多くは彼女をいつも悩ませていました。さらに信者たちもたびたび彼女のもとに滞在するためにやってきました。それでもホーリー・マザーは全ての人に慈悲深かったのです。彼女は家主者としての生活と霊的生活をどのように送るかを実演して見せました。ですので、特に家主者、とくに女性の信者たちのために、ホーリー・マザーは理想像として非常にふさわしいのです。

## 2022年12月24日クリスマス・イブ礼拝

### 「クリスマス・イブの講話」

#### スワーミー・メーダサーナンダ

今日私たちはヴェーダーンタ協会がクリスマス・イブを祝っています。この協会はラーマクリシュナ僧院の支部ですので、ヒンドゥ教の寺院がクリスマス・イブを祝うことをいぶかる人もいます。祝う理由は、ラーマクリシュナ僧団の創始者であるシュリー・ラーマクリシュナとその高弟子スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが宗教の調和を实践したからです。特に、シュリー・ラーマクリシュナはヒンドゥ教のさまざまな道だけでなく、イスラム教、キリスト教なども自分の道として実践しました。ですので、私たちは宗教の調和を説くだけでなく、自らの道として宗教の調和を实践しようとしているのです。だから、私たちは、お釈迦様の生誕も主イエスの生誕も祝います。

ラーマクリシュナ僧院がクリスマス・イブを祝うのにはもう一つ理由があります。シュリー・ラーマクリシュナ没後のある日、彼の若い弟子たちが集まって放棄の誓いを立てました。後になって彼らは、その日がたまたまクリスマス・イブ、つまり偉大な放棄者で、放棄を説いた救世主イエス・キリストの生誕にまつわる日であったことを知

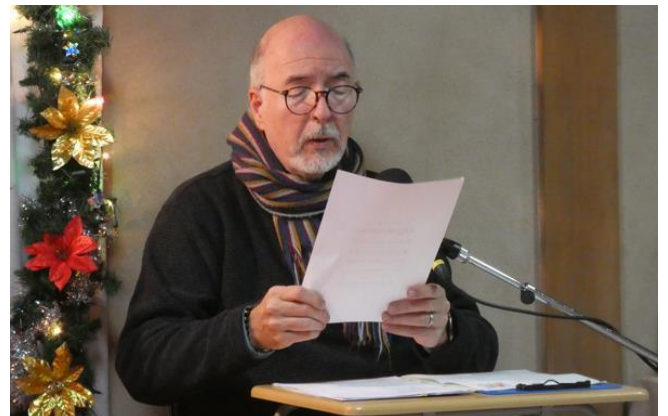
ったのです。このため、クリスマス・イブはラーマクリシュナ僧団の伝統において重要な位置を占めています。

さて今日は、スティーヴン・モーガン氏が参加されています。彼は聖歌を深く研究し、賛美歌と英語文学を大学で教えてこられました。今は引退しています。今日は主イエスの生涯とその教えについて、お話していただきます。

## 2022年12月24日クリスマス・イブ礼拝

### 「クリスマス・イブのお話」

#### スティーヴン・モーガン



本日はお話ができることを大変光栄に思います。私は若い頃から音楽に傾倒しており、育ったイリノイのメソジスト教会で活動していました。私は何年間も歌手、パイプオルガン奏者、指揮者として、約10の違った教会でクリスマスを祝ってきました。ヴェーダーンタ協会がキリストの教えがとても尊重されていることは知っていましたが、クリスマス・イブの礼拝もあることを知って驚きました。

今日は、キリストという人物の少し深いところまでお話できたらと思います。キリストはイエスの別名です。クリスマス・イブにキリスト教会で伝統的に読むのは、マリアとジョセフの若いカップルが夜を過ごす場所を探すのに骨を折っているというおなじみの物語です。二人とも疲れ果ててへとへとでした。ジョセフは歩き、マリアはロバに乗っていました。マリアは今にも最初の子供を産みそうでした。しかしどの宿も部屋は満杯でした。最後の宿も満杯でしたが、宿のオーナーは非常に思いやりがあったので、寝床を提供してくれました。しかしそこは、牛やロバなどの動物がいる馬小屋でした。その場所は少し臭いがするものの、一晩滞在するのには理想的で、暖かくて安全でした。

彼らが宿に落ち着いた時、マリアに最初の陣痛が始まりました。ジョセフは助けを求めて宿屋の主人のところに行くと、幸いなことに彼の妻は助産師でした。宿屋の奥さんの介助でマリアは無事に出産し、夫婦は子供をイエシュワと名付けました。言うまでもなくイエシュワの英語読みはイエスです。

町の郊外には、オオカミや泥棒から羊を見守る羊飼いたちがいました。彼らは空に突然たくさんの天使たちを見たのでびっくりしました。天使たちは、

先ほど私たちが歌った「神に栄光を…」を歌っていました。天使の一人が「隣の町ベツレヘムで子供が生まれたよ。その子は特別なのだ」と言いました。この子供はユダヤ人が何世紀にもわたって待っていたメシア・救い主だったので。

ほとんどの羊飼いたちは町に行き、きらめく星を頼りに馬小屋を見つけました。彼らはマリア、ジョセフ、イエスに敬意をあらわしました。この物語はクリスチャンの家庭で育った者の郷愁を誘います。よく知っている物語だからという理由だけではありません。クリスマス・イブが、家族の集まり、ろうそくの炎、クリスマスキャロルの歌声、などを連想させるからです。また、皆の人の心の中には、家に待つ温かい食事やプレゼントが浮かびます。この物語は一般に広がり、信心深い人々も宗教的でない人も含め、世界中で知られています。

後に、私はクリスマス・イブの別の読み物にも注目するようになりました。それは『聖ヨハネによる福音書』として知られています。イエスについての多くの物語を集めた、4冊の本があります。(マタイ、マルコ、ヨハネ、ルカの福音書) 『聖ヨハネの福音書』は次の言葉で始まります。1 初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。2 この言は、初めに

神と共にあった。4 彼の内に命があった。命は人間を照らす光であった。5 光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。14 言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。恵みと真理に満ちて。

『聖ヨハネの福音書』は美しいクリスマスの物語を超えて、イエスというある種の宇宙的存在とその特質の素晴らしさに焦点を当てています。このみどりごは「言葉」の化身に他ならない、と聖ヨハネは言います。彼はギリシャ語で記したので、「ロゴス（ギリシャ語で『言葉』）」という言葉を用いました。言葉（ロゴス）は、神（ギリシャ語で「テオス」）とともに、永遠に存在しています。しかし聖ヨハネは、これらは同じものである、つまり、「言葉」と「神」は本質的に同じである、と言います。ですので、イエスを知ることは神を知ることなのです。さらに、イエスは単なる神の伝道者として送られたのではありません。「彼」は人間の形をした「神」そのものだったのです。

ですから、キリスト教の非常に大事な教えは、「言葉」つまり「神」が本当に私たちの一人となって私たちと共に暮らした、ということです。聖ヨハネは「私たちの間に宿られた」という大変重要なフレーズを用いました。それは「彼」が私たちとテントを張ったことを意味します。「テント」とは一般的に

キャンプを意味しますが、彼らは遊牧民でした。つまり、神が実際にやって来て、彼らの場所に住み、喜んで共に旅をするということで、なんとも素晴らしい感覚でした！

それはいうなれば一種のキリスト意識です。そして聖ヨハネは人としてのキリストについても語っています。彼は、「『彼』の人生は光であり、『彼』の人生は恵みと真理に満ちていた」と言いました。光は、憎しみ、恐れ、他者から隔てるものなど、私たちの人生の暗い面を照らすという意味で使うことができ、そしてまた、この光は私たちがこのような暗闇の領域を打破するのに役立ちます。そして彼の別の特質・恵みは、親切、寛容、穏やか、思いやりです。そして彼は真理に満ちていたということは、イエスの言葉と行動は信頼ができ、偽りがなく、ということに気づかされます。想像してみてください、もし私たちが光、恵み、真実というイエスの特質を本当に受け取るなら、イエスの存在は私たちと他者にとって真の恩寵となり、平安、正義、慈悲、希望はこの世界で当たり前のことになるでしょう。

ここまで、イエスの物語、つまり彼の生誕と彼の人生哲学、そして聖ヨハネによる証言についてお話してきました。つぎに、私たちの学びとなるイエスの教えをみなさんにシェアしたいと

思います。さて、彼は迫害を避けてエジプトでしばらく過ごしました。さらにイエスは偉大な師から学ぶために、インドのカシミール地方などでしばらく過ごした、とも言われています。彼には25~30年ほどの大きな空白期間があります。人々はあちこちで彼に従い始めました。

別の時に彼は丘に登り、人々が彼を見て耳を傾けることができるように、山上の説教をしました。これは彼の教えの重要なエッセンスでした。彼は言いました：

- ・ 心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。彼が言いたかったことは、信仰が薄い人々に対して「あきらめないでください」ということです。彼は「あなたも天国に行くでしょう」と言いました。
- ・ 悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。両親や家族と死別した人も、彼の言葉に慰められます。彼の教えは初めから慈悲深く、山上の説教では信仰がそれほど強くない人々に「どうぞ来てください、聞いてください。あなたも力を得るでしょう」と慈悲の言葉をかけます。
- ・ 柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。実際に富を得るのは謙虚な人びとで、声高

な人々ではありません。

- ・ 義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。表向きに強く説教している人びとではなく、静かに内面的に望んでいる人。彼らは満たされるでしょう。
- ・ 憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。
- ・ 心の清い人々は、幸いである。行動と行いにおいて純粹さを求める人々は、確かに神を見るでしょう。

さて、それを聞いていた人々は、これらの状況の中に、自分自身を見ることができました。最近誰かを亡くした、密かに世界の平和を願った、ちょっとした慈悲を示した、ということもあるでしょう。イエスは彼ら全員に約束しました。あらゆる種類の信者、探求者が何かを見いだすことができました。最後の二つは非常に重要です。彼は言いました：

- ・ 平和を実現する人々は、幸いである。平和を望むだけの人ではなく（なぜなら誰もが平和を望んでいるから）、平和を作っていく人たち。つまり、それを少しでも実現させるために働いている人々のことです。彼らは神の子である。
- ・ 義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。



今夜聞いた教えの多くはたとえ話です。たとえ話はキリストの教えの主な方法でした。

ここで『シュリー・ラーマクリシュナの福音』について述べて、私の話を締めくくりたいと思います。今日ここで、大人のイエスの美しい絵と、聖母と幼子イエスの美しい絵を見て、私は感動しました。『シュリー・ラーマクリシュナの福音』には、彼の友人の一人が、私たちがマドンナと子供と呼んでいる、聖母マリアと幼子イエスの絵を飾っていた、と書かれています。ある日、シュリー・ラーマクリシュナはその絵を見て恍惚な状態になりました。彼はその絵から目を離すことができませんでした。そしていつものようにマザー・カーリーに叫びました。「マーよ、あなたは何をなさるのですか?」。ご存じのように、彼は別の宗教を理解するためにそれに惹かれました。そして数日間、カーリー聖堂に足を踏み入れませんでした。そうできなかったのです。

数日後、彼はパンチャヴァティを歩いていました。彼は一人の男性が彼の方に歩いて来るのを見ました。美しく、色白で大きな目をした澄み切った表情のその人が向かってきました。互いに向き合ったときに、シュリー・ラーマクリシュナは言葉を聞きました「世の救済のためにハートの血を流し、人々への愛ゆえ海のごとき受難に耐えたキ

リストを見よ。彼は、神と永遠に合一しているヨーギーの大師。彼こそはイエス、愛の化身である」。最後に、肉となった言葉、この世の初めから神と共にあった言葉、とは何でしょうか? それは「愛」です。

ありがとうございました。こうして私の考えをみなさんと共有できる機会をいただいたことに感謝します。長年にわたりヴェーダーンタ協会と関わってきたおかげで、私のキリスト教の聖典への理解は深まりました。多くの点で私の信仰を深めてくれました。

## 忘れられない物語

### 「思ったものになる」

私たちは「思ったものになるの」ので、あらゆる考えは重要だ。あるところに、出家の聖者がいた。彼は木の下に座って人々に教えていた。彼はミルクを飲み、果物だけを食べ、終始「プラーナーヤマ」をしていたので、自分をとても神聖だと感じていた。

同じ村に、一人の道徳的に悪い女性が住んでいた。その聖者は毎日彼女に、「そんなことばかりしていたら地獄へ落ちるぞ」と注意していた。かわいそうな女性は、自分の人生のあり方を変えることができなかった。なぜならそ

れだけが彼女の生きる手段だったからだ。彼女は出家者に言われた恐ろしい未来にすっかり動揺した。彼女は泣きながら主に祈り、「神様、私にはどうすることもできません。どうぞお許し下さい」と許しを請うた。

聖者も悪い女も死んだ。天使たちがやってきて彼女を天国へ連れて行き、悪魔が出家者の魂を奪った。

「これはどういうことだ！」と出家者は抗議した。「私はとても神聖な生活を送ってきたではないか。それに皆を神聖さへと導いた。それなのになぜ悪い女が天国に召されて、私は地獄へ落ちるのだ？」

悪魔は答えた。「なぜなら、彼女は不浄な行為を強いられていたが、心は常に主を見つめ、解脱を求めていた。そしてその解脱が今、彼女にやってきたのだ。それに引き換えお前は、聖なる行為だけをしたが、心は常に他人の愚かさに固執してはいではないか。おまえは罪だけを見て、罪だけを考えていたので、今、お前は罪だけがある場所に行かねばならないのだ」

この物語の教訓は明らかである。外から見える生活はほとんど関係がない。ハートが純粹でなければならないのだ。純粹なハートは、善だけを見て、決して悪を見ない。私たちは決して人類の

監視者になってはいけないし、罪びとを悔い改めさせる聖者の座を誇るのもいけない。それよりは、自分自身を浄化せよ。そうすれば結果として他者を助けることとなるだろう。

## 今月の思想

僧侶は、毎日君のために君の心を掃除し続ける掃除人だと思うか？ 彼は君の心を一度はきれいにすることも出来ない。しかしその後、心をきれいに保つかどうかは君次第なのだ。

彼はあなたに道を見せてくれるだろうが、あなたはその道を自分で歩かなければならない。

…スワミー・アドブターナンダ

**発行：日本ヴェーダーンタ協会**

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)